



国労九州本部第40回定期大会開催



九州本部 千々岩委員長

委員長挨拶

コロナ禍でエッセンシャルワーカーとして最前線で働いている皆さんに敬意を表したい。九州本部を代表して何点かについて挨拶したい。

①組織拡大について 九州本部として、この一年3名の拡大が出来たことに関係地区本部に感謝したい。今後も諦めない取り組みが大事であり、引き続き九州本部としても皆さんと一緒に拡大を継続して行きたい。

8月30日博多TKPにおいて第40回国労九州本部定期大会を開催しました。コロナ感染症の扱いが5類に格下げされたものの、未だ感染者が増加している中での開催となりました。大会前段には、労働講座を開催し「北東北のローカル線の現状と課題」について学習し、来賓には国労議員団から伊藤市議、本部から岩元書記長が参加し情勢報告を行いました。

と思う。昨年は300名社員がJR九州に見切りをつけ退職している。また組合離れも多くなり、いろいろ悩んでいる人がいる。是非相談相手になることから組織拡大を強化して欲しい。また、営業のサービスマンサポート会社の直営化に伴う動きについても、注意を払い運動を強化する事が求められている。全国の中でもHPの重要性が言われている。九州でも引き続き若い力等HPを活用して若い人たちが興味を持つように努力していく。今年も10月にレクを開催し12月には組織拡大大会も計画して行くので協力をお願いする。

②新人事賃金制度について
これまでの会社のコロナ対策に対する、列車減便、ワンマン運転拡大の合理化、経費節減、手当や賃金の抑制のため若い社員は幻滅し見切りをつけ退職していった。会社は、優秀な人材確保と長期の労働をしてもらうために来年4月よりこの制度を改正することにしましたとしている。基本給を2万から3万程引上げ、嘱託再雇用者も引き上げるとしている。大幅に基本給がアップしたように見えるが、都市手当の廃止や旅費の廃止などもあり社員によってはあまり変わらない人も出る。ベアと言いながら退職金に反映されないなど問題点も多い。成果主義が恣意的に運用されないように今後も注視していく必要がある。問題が発生すれば今後も交渉を強化していきたい。

③安全安定輸送の取り組みについて
3月のダイヤ改正では、無人駅の拡大、駅の営業時間の変更により定期券

の購入等や減車・減便により通勤帯や最終列車で積み残しが発生する問題が起きている。また、「地域公共交通活性化再生法」が成立し輸送密度千人以下の線区は「特定協議会」で上下分離方式やバス転換などの方向性が出されることになる。今後も様々な問題に対し、申し入れや交渉を強化していきたい。

④政治闘争について
ロシアがウクライナに侵攻して一年半が経過した。国連憲章の精神を根底から覆すもので、ロシアの暴挙は断固許されるものではない。岸田政権はこうした情勢を利用し「安保3文書」の改定により憲法の趣旨を大きく逸脱した敵基地攻撃能力の保有を打ち出し「専守防衛」路線を大きく変更するなど戦争する国づくりに奔走している。

今こそ平和と民主主義を守るために奮闘することが求められている時はない。平和憲法を守るために、立憲野党と協力をして憲法改悪阻止の運動を強化していく。国労は、諸要求実現に全力で取り組むことをお約束し挨拶したい。

<メッセージ>

- 国労北海道本部
- 国労東日本本部
- 国労東海本部
- 国労西日本本部
- 国労四国本部
- 立憲民主党
- 社会民主党
- 日本共産党
- 国民共済coop
- 九州交運労協
- 九州労働金庫

- 城井 崇
- 梶原 正実
- 田村 貴明
- 矢田 信浩
- 古賀 孝治
- 山本 新彦